

# 門衛左茂磔

復刊版



群馬地域文化振興会

著 吉 成 森 藤

門 衛 左 茂 磔

(附)

牲 犧

1926

版 出 社 潮 新



## 自序

これは、私の最初の戯曲の本だ。かなり長く創作の筆を取りながら、又劇への關心を持ちながら、私は今年まで一つも戯曲を書いた事がなかつた。が、どうしても書かずにはゐられない氣もちに促迫されて、相次いで此の二つの長篇に指を染めた。最初に「襟茂左衛門」、次に「犠牲」。

これは、ひどくちがつた範疇に属する二種類の劇だ。片方が舊劇風、片方が近代劇的なものである爲めか？ そればかりではない。一方が大衆劇、他方が小劇場向きの作であるからか？ 概ねはさう云へやう。その二つの傾向こそは、現代の——否、將來の新しい劇の二大分野でなければならぬ。

幸ひ、雑誌に發表されると共に、兩者甚大な好評を獲た。その厚意ある批評の筆を取つて下さつた諸氏に、ここにあつく感謝する。

で、——一つはまだ半ばきり發表しないうちに——上演の申込みを受け、同時に舞臺に

## 目 序

掛けられる事になつたが、「犠牲」の方は、折角の築地小劇場の御骨折りを泡に、突然禁止になつた。踵いで、雑誌さへ厄を受けた。「犠牲」は「時代の犠牲」を表現したつもりだつた。が、思ひがけなくも、又自らそれになつたのだ。「磯茂左衛門」の方は、カットされながら、井上正夫一座の手によつて日延べになるまで演ぜられた。

ここで、いろいろ御厄介をかけた兩劇場の演出者初め諸氏に、ふかく御禮する。更に文章を下さつた兩舞臺監督、小山内氏、鈴木氏、考證の田村氏、装幀その他の繁岡氏、伊藤氏達に感謝を述べる。

田村氏の考證は、今年初頭資料を送られた後更に研究の結果、一二ヶ所當時の材料とちがつた點がある。が、私の作には別に變更の必要もない事實だ。なほ、都新聞紙上某氏が駁した同氏の「茂左衛門考」にも、随分貴重な知識がある。私の戯曲を以て「農民傳説の結晶であり、眞珠塔であり、生きた傳説である」とされたその文章をも、乞うて載せたかつたが、重複の感があるので思ひ切つた。

# 目次

## 磯茂左衛門

第一幕	三
第二幕	七
第三幕	一〇
第四幕	一七
第五幕	二五

○

「磯茂左衛門」の演出について	鈴木善太郎	一三
沼田領階級闘争史略	田村榮太郎	二五

機 牲

第一幕	一五
第二幕	二〇
第三幕	二五
第四幕	三〇
第五幕	三五

○

「機牲」について……………小山内 薫……………三〇

装 幀 繁 岡 鑿 一 氏



場の合會山峰大 幕二第 〔門衛左茂磔〕



場の訴籠駕 場一第幕三第 〔門衛左茂磔〕



場の場刑 幕五第 〔門衛左茂磔〕

松竹座六月興行

繁岡鑿一氏舞臺裝置

(デッサン)